

盛り土崩落防ぐ新技術

松阪の会社が特許 産学連携し開発

松阪市の土建会社「尾鍋組」が、盛り土の崩落を防ぐ排水対策の新技術を三重大学、中日本高速など高速道路各社と開発し、特許を取得した。

盛りの土は、豪雨などによって内部の地下水位が上昇すると崩落につながる。静岡県熱海市の土砂災害で注目が集まった。同社は砕石を用いた宅地の地盤改良技術「エコジオ工法」の開発で特許を取得し

ており、この工法を応用して、地下水位が高い場所に砕石柱を連続して打ち込んで壁を作り、最下部に水抜きパイプを通す技術を開発した。

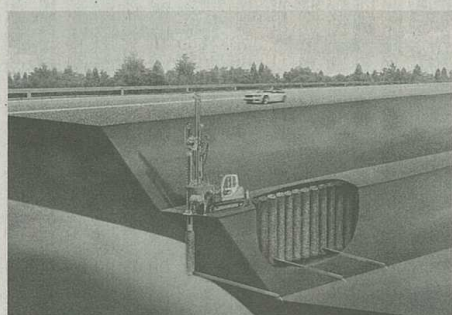
穴の開いた水抜きパイプをのり面に打ち込む在来工法に比べて排水効率が高く、東日本大震災で崩落した仙台北部道路（宮城県）

の盛り土で幅40メートルにわたって施工したところ、内部の水位が約2メートル低下したことが確認されたという。

砕石柱は深さ5メートル。地下水位がそれより低い場合は使えないなど制約があるが、尾鍋哲也社長（59）は「開発した技術が今後の防災につながればうれしい」と話している。



をる長ら 証す社ら 特許手尾鍋 (中央)



新技術のイメージ図